

社会教育

今年2010年は、「国民読書年」

平成20年6月の国会決議により、2010年を「国民読書年」とすることが定められ、政官民が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねていくことが宣言されています。

2010
国民読書年

じゃあ、読もう。

CONTENTS

特集「子どもの読書活動の推進
～家庭・地域・学校等の連携～」……………2

提言……………4

「子どもの豊かな読書活動を育む環境づくり
～学校・家庭・地域の連携は人の絆で～」

国立大学法人福島大学人間発達文化学類特任教授 高野 保夫

輝け社会教育……………5

喜多方市熊倉公民館

新地町図書館

お話しボランティア「イクタン号GO」

社団法人ガールスカウト日本連盟福島県支部第23団

人 こ え か お こ ころ……………7

福島県公民館連絡協議会会長 秋 山 敬 一

福島県家庭教育インストラクター連絡協議会会長

増 子 恵 二

前只見町昔ばなしの会副会長

堀 金 保 男

白河市教育委員会派遣社会教育主事

柳 沼 典 正

平成21年度社会教育事業関係各種受賞者……………8

小野町ふるさと文化の館の方々と
小野町立浮金小学校の子どもたち



小野町ふるさと文化の館は、「読み聞かせ」「ブックトーク」「移動図書」等で小野町内の小学校を巡回しています。

写真は、浮金小学校に小野町ふるさと文化の館の方々が訪れ、「読み聞かせ」をしている様子です。(上:上学年、下:下学年)

子どもたちは、小野町ふるさと文化の館の方々のお話に興味を持って熱心に聴き入っていました。



「読書離れ」が言われる中、福島県では様々な取組みを行い、小・中学生における一ヶ月に読む本の冊数が増加するなどの成果をあげてきています。しかしながら、その伸びが滞るなどの傾向がみられる課題もまだ残されています。

福島県教育委員会は、平成22年3月に新たに「福島県子ども読書活動推進計画(第二次)」を策定し、子どもが自主的に読書活動に取り組むことができる環境を整備するため、県や市町村等が自主的に実施すべき施策の方向性をまとめました。

特に、家庭、地域、学校等におけるそれぞれの役割を踏まえた上での相互の連携を図りながら、子どもの読書活動を推進することが重要です。

第二次計画の基本方針

1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

- 家庭における子ども読書活動の推進
- 地域における子ども読書活動の推進
- 学校等における子ども読書活動の推進
- 支援を必要とする子どもの読書活動の推進

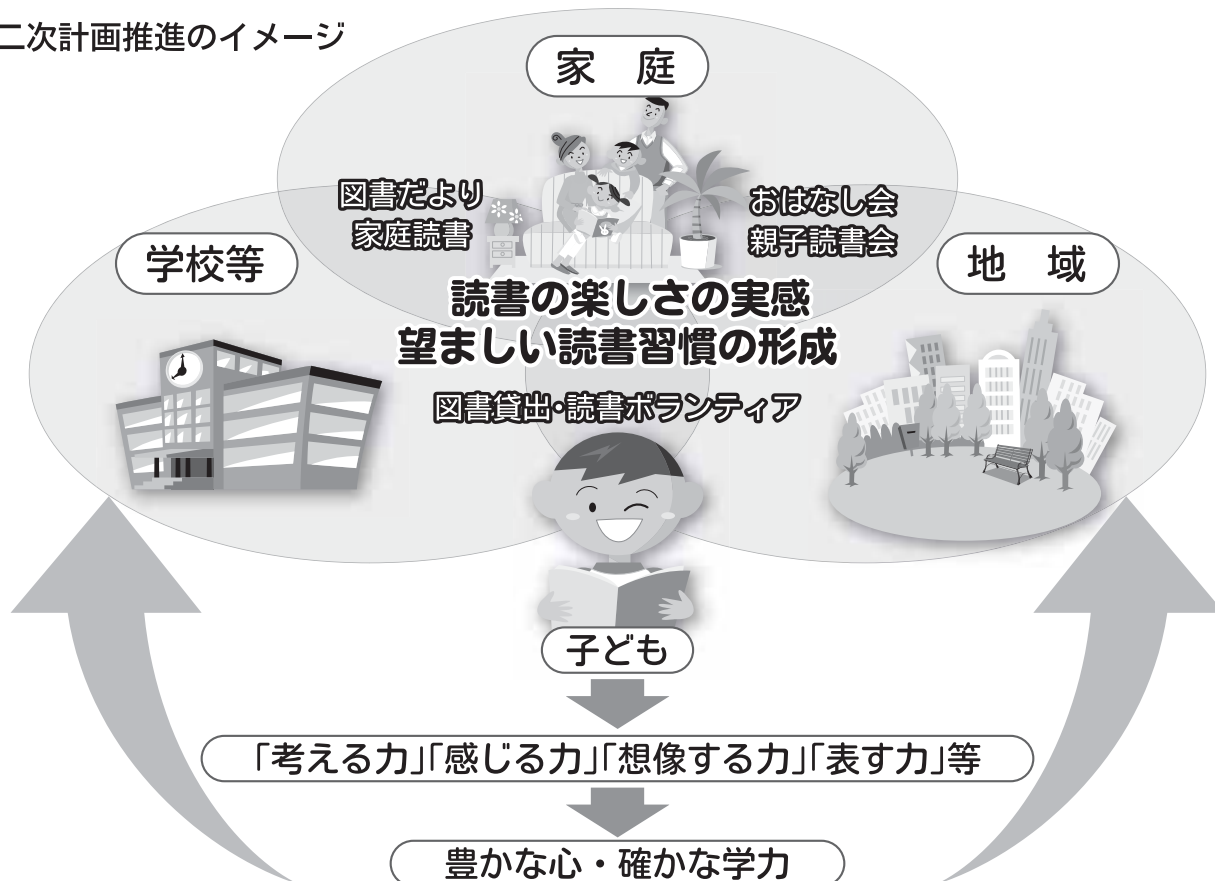
2 子どもの読書環境の整備と充実のために

- 公共図書館等の機能の充実
- 学校図書館の機能の充実
- 家庭、地域、学校等における連携の推進

3 子どもの読書活動についての理解の促進のために

- 推進のための広報・啓発
- 子どもの読書活動に関する情報の収集と提供
- 優れた取組みの奨励と優良図書等の紹介

二次計画推進のイメージ



福島県教育委員会は、取組みの充実を図るため、連携・協力する仕組みの構築をめざします。

〈具体的事例〉子ども読書活動推進に関する取組み【鏡石町立第一小学校】 ～図書ボランティア・町図書館・あゆみらいとの連携を通して～

平成21年度子ども読書活動環境整備事業「子ども読書事例研修会」発表(平成22年1月21日)より

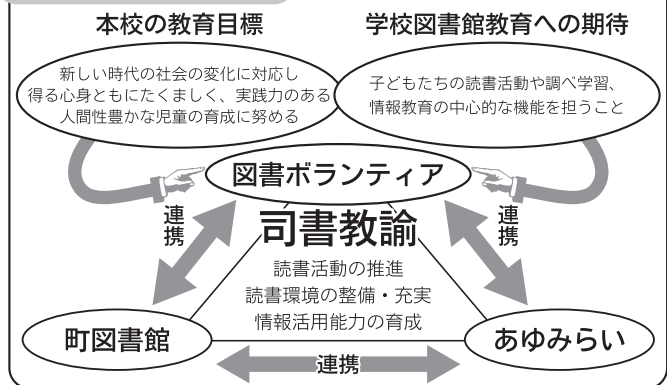
学校紹介

- 1 26学級(特別支援学級2) 児童数672名
- 2 校長 佐藤 高実
- 3 岩瀬牧場で有名な鏡石町の中心部に位置
- 4 平成18年度文部科学省読書活動優秀実践校受賞

具体的な取組み

- 1 読書意欲を高める読書活動の工夫
- 2 読書環境の整備・充実
- 3 情報活用能力の育成

連携の様子



取組みの概要

鏡石町立第一小学校

図書ボランティア

- 平成14年から読み聞かせボランティアとして活動を開始。今年度の会員数26名
 - 蔵書整備・学習支援グループ**
 - 図書の貸し出し・返却の補助
 - ブックルームの使い方・本の探し方指導(TT授業)
 - レファレンスサービス*
 - 新刊本受け入れ・検索しやすい配架
 - 環境整備・読み聞かせグループ**
 - 季節ごとの掲示 ●本の補修
 - 読書月間への支援 ●読み聞かせ
 - 多読賞の表彰 等々
- ※レファレンスサービス: 調べものや図書の探し方の手伝いをする



鏡石町図書館

- 平成10年開館 職員数7名
 - 蔵書数73,747点
(児童書の充実(力を入れている。))
 - 小学校お話し会(小学校2校)
 - ブックトーク
(鏡一小、TT授業の実施)
 - 小・中学校移動図書館
(毎月第2・4金曜日
午前と午後の2回)
 - 各種レファレンスサービス(新刊本、お薦めの本の紹介、授業教材用図書の団体貸し出し等々)
 - その他(夏休みの自由研究・読書感想文の相談、鏡一小パスファインダー*作成の支援)
- ※パスファインダー: あるテーマに関する資料や情報を探するための手順を簡単にまとめたもの



あゆみらい

- 平成8年結成 会員数13名
 - 定例お話し会(毎月1回町図書館にて)
 - 集いの広場(保健センターにて、乳幼児と保護者への読み聞かせやブックスタート等々)
 - 各種依頼によるお話し会(幼稚園、保育園、小学校等。小学校2校は、授業参観日後の懇談会時にも実施)
 - その他(腹話術、大型絵本、紙芝居、ブラックシアター*、エプロンシアター*、ストーリーテリング*、工作等々 毎回新しい作品に挑戦する研究熱心な会である。)
- ※ブラックシアター: ブラックライト等を利用し、蛍光塗料で色づけした人形等を使用して演ずる人形劇
- ※エプロンシアター: 様々なしなかけがついた胸当て式のエプロンを劇場に見立て、人形を使ってお話を展開するもの
- ※ストーリーテリング: 語り手が、物語や昔話等を自分のことばで語って聞かせること



研究の成果と課題

成果



- 情報収集・選択能力の向上
- 図書館に対する意識の変化
- 貸し出し冊数の増加

情報活用能力の向上

授業の中で活用できる学校図書館の運営

パスファインダーの充実

町図書館・図書ボランティア・あゆみらいとの連携を推進

利用する立場に立ったより使いやすいブックルーム作り

今後の課題

子どもの豊かな読書活動を 育む環境づくり

～学校・家庭・地域の連携は人の絆で～

国立大学法人福島大学人間発達文化学類特任教授

高野保夫



最近の子どもたちを取り巻く社会的・文化的な状況は、ますます読書離れを加速させているようである。ある調査によると、児童・生徒が一日の生活の中で携帯電話やメールなどに充てる時間の多さは、私たちの想像をはるかに超えているという。電子メディアの影響を強く受ける中で、読書を通して学ぶことばへの感性、他者に共感できる力、想像力を育み思考を深める力、自己を豊かに表現する力などが脆弱(せいじゃく)化する傾向は、これから一層進行していくように思われる。一昨年(2009年)の6月、国会の衆・参両議院において2010年は「国民読書年」と決議されたのは、活字文化離れで失われるものがあまりにも大きいということの危機意識の表れである。福島県教育委員会においても「第6次福島県総合教育計画」を踏まえた「福島県子ども読書活動推進計画(第二次)」を策定し、この4月から5年計画で諸施策の具体化を図ろうとしている。

新しい読書活動推進計画は、基本方針として次の3つの柱を掲げる。まず1つめは、子どもが読書に親しむ機会の充実であり、2つめには、子どもの読書環境の整備と充実、3つめには、子どもの読書活動についての理解の促進である。子どもたちが本に親しみ、読書活動を意欲的に展開するためにはいずれも外せない大事な柱であるが、問題はそれらをいかに実効あるものにするかである。

その中でも、最初の柱である「読書に親しむ機会の充実」は重要である。その実現に向けての条件整備として、たとえば、(1)児童生徒の読書活動・傾向の実態分析とその改善策をどう図るか、(2)子どもたちの生活の基盤である学校の図書館の蔵書数充実のための方策は、(3)学校図書館の司書や図書ボランティアの充実のための手立ては、(4)図書館にかかわる人材のネットワーク化や公共図書館等との協力体制を強化するための課題は何か、などの点については、早急な検討が必要であろう。選書のしかたや本の展示方法などを工夫することで子どもたちが本に興味を持ち、楽しみながら読書し、活字文化の世界にふれることでさまざまな知恵を獲得していくことを大事にしたい。

また、本を介して地域の多くの人とのかかわりの中で「社会力」(門脇厚司)を身に付け、将来の地域社会を担える人材として賢く豊かに成長していく過程を地域社会全体で見守りたい。社会はいま厳しい経済状況におかれているが、各市町村の行政担当者に強く望みたいのは、まずは読書案内人としての図書館の司書やボランティアの増員であり、

不足している蔵書数を満たすための図書購入費の予算の確保である。

次に、学校、家庭、あるいは地域の図書館等との連携を図り、児童生徒の読書活動を実りあるものとするためには、(1)各学校の書架にある本や多くの資料類、地域の公民館図書室にある蔵書などのバーコード化を進め、その有効活用を図るシステムづくりを具体化する、(2)県立図書館、公共図書館、学校図書館等をネットワーク化するだけでなく、それらをつなぐ地域における人材の発掘とその支援体制を確保するための人的、財政的措置を講ずるなどの対策が必要である。さらにまた、(3)各市町村は早急に地域における「子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちだけでなく成人をも含めた読書活動の活性化に向けた中期的ビジョンを示す、(4)読書環境の質的向上を図るための研修の機会を確保し、各地で活躍しているボランティア団体や図書館活動の成果等の交流・発表の支援や広報活動を充実させるなどの環境整備を図ることも不可欠である。

本に親しみ、暮らしに生きる豊かな知恵と賢さを子どもたちに育むために、読書活動にかかわる多くの関係者にはいまあげた諸課題の克服を強く望みたいし、人の絆を通して学校・家庭・地域の連携が実際に機能し、「福島県子ども読書活動推進計画(第二次)」に掲げる3つの柱を中心とする実践的活動が各方面で積極的に展開されることを期待したいと思う。

プロフィール たかの やすお

- 1967年 福島大学教育学部卒業
- 1989年 福島大学教育学部教授
- 1997年 教育学部附属教育実践総合センター長
- 2002年 華東師範大学(上海)外国人特任教員
- 2009年 福島大学名誉教授、特任教授
- 専門 国語科教育学 教育実践学
- 著書 『開かれる地平』(単著、民報印刷)
『21世紀の教師教育を考える』(共編著、八潮社)
『国語科教育学の成果と展望』(共編著、明治図書)
『戦後国語教育実践記録集成・東北編(全16巻)』
(共編著、明治図書)



公民館における「ふるさと創生」事業 『愛の31文字コンクール』を通して

喜多方市熊倉公民館

1 事業の概要

喜多方市熊倉公民館の雄国山麓にある名所「恋人坂」「恋人岬」と呼ばれるロマンあふれる景勝地に因み、『愛の31文字コンクール』を全国に発信してきました。郷土が誇る豊かな自然と美しい景観を通しての「人づくり」はもとより、おらが町の「ふるさと創生」に生かそうとしての企画です。

- (1) 瑞々しい感動、心が響きあう情感と感性を深め、豊かな人間味あふれる住民の育成
- (2) 若さと情熱、躍動感のある地域の開発による若者が集う「短歌の町」づくり
- (3) 雄国沼への観光客の誘致とともに、元気・活気ある地域を通じた地場産物の振興



▲愛の31文字コンクール授賞式

5回目の今年は、NHK短歌教室の講師を審査員に依頼し、応募作品も北海道から沖縄までの658人より1379首を数えました。

平成20年度と平成21年度は文化庁より「言葉に関する指導者養成事業」の指定を受け、『心より、心に伝える言葉とは…』を主題に、地域における言葉に関する指導者育成にも取り組んできました。

これらの事業が評価され、福島県教育委員会より、功績顕著な公民館としての栄誉を受けました。

2 事業の効果

- (1) 各教室、講座、学級における短歌の時間一単位を確保し、「短歌の町」づくりの推進
- (2) 演歌「恋人坂」「恋人岬」とともに、特産物の「雄国そば」の販売促進のため、「雄国そば音頭」のCD作成と音頭の振り付けによる「みなぎるコミュニティー」の確立
- (3) 地場産の酒米を用いた純米酒「恋人坂」と「恋人岬」を醸造し、米の消費拡大の推進
- (4) 「恋人坂」「恋人岬」をめぐる「そばウォーク・イン雄国」による人々の交流と販路拡大
- (5) 他機関との共催により、地域における「言葉の教育」「言葉の学習」の拠点づくり

地域と一体化させながら、歴史の足音が響き、文化の香りが高く、温かい人情による、心が安らぎ、心に響き、心がときめく「ふるさと創生」に努めていきたいと念じています。



▲吟行会(恋人岬)

子どもたちへ読書の素晴らしさを伝えるために

～楽しい読書は心の栄養～

新地町図書館

新地町は、明治5年に設立された県内初の共立小学校^{かんかいどう}「観海堂」や国指定史跡「新地貝塚」などを有する自然豊かな人口8,500人の町です。

当館は平成9年に開館し、生涯学習の拠点、また、「知性の泉」となる施設として、学校やボランティアとの連携、ブックスタート事業など、地域に根ざした活動を積極的に行ってきました。

その中から現在、力を入れ取り組んでいる事業を2つご紹介します。

1 学校へ本を届けよう！「図書館コーナー設置事業」

町内には小学校が3校、中学校が1校あります。「子どもたちの身近な環境にもっと本を」という思いから、平成17年度より、毎月、読書活動ボランティアの方々及各学校に本を運搬しています。

開始当初は、図書室の一角をお借りし、月替わりの壁面飾りと本30冊の展示のみでした。しかし、次第に「もっと冊数を増やして欲しい」「各クラスに置きたい」などの嬉しい要望があり、現在では、全学校合わせて毎月約600冊の本を子どもたちに届けています。



▲小学校での個人貸出の様子

また、夏・冬休み前には移動図書館として、一つの小学校において全児童を対象に個人貸出も行っています。

ご協力いただいているボランティアの方々、学校の先生方に感謝です！

2 読んだ感動を絵に！「読書感想画コンクール」

子どもたちの読書力、表現力の向上を目的として、昨年度より夏休みに町内の県立高校(1校)と小中学校の児童・生徒を対象に行っています。

多くの力作が揃い、図書館まつりでの表彰式には保護者の方々も多数参加され、作品の前で子どもと一緒に撮影されている様子はとても微笑ましく、親子の読書推進にも繋がった事業です。今年度は、「町長賞」受賞作品が県コンクールにおいても、見事「優良賞」に輝きました！

新地町図書館は、昨年4月「子どもの読書活動優秀実践図書館」として、文部科学大臣表彰を受けました。今後も様々な活動を展開し、利用者に親しまれる図書館として、サービス向上に一層努め、皆様のご来館をお待ちしております。



▲読書感想画コンクール受賞者記念撮影



子どもたちの未来と共に お話しボランティア「イクタン号GO」

私たちお話しボランティア「イクタン号GO」は、設立12年になります。現在31名のメンバーで、絵本の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアター、パネルシアターにペープサート、そして語りに寸劇等とありとあらゆるもので子どもたちにお話を楽しんでいただいております。

主な活動は、図書館での月3回（それぞれ第4週目の金曜日の赤ちゃんおはなし会・土曜日のジュニアおはなし会・日曜日のリトルおはなし会）の定例おはなし会と年3回の特別おはなし会、本宮市内の幼稚園・保育園・小学校の出張おはなし会（17カ所）、健診時の読み聞かせ等です。最近では、サロンや子供会などからもお声をかけていただいております。他には安達管内でのおはなし会や毎年8月に開催される「絵本ワールドinふくしま」にも積極的に参加させていただいております。このようにいろいろな所で活動させていただいており、また、お声をかけていただければどこへでもおじゃまさせていただきますいております。どこへお伺いしても、子どもたちはよく聞いてくれるので、とてもうれしい限りです。



▲出張おはなしの会の様子

そのうれしさを励みに、また子どもたちの笑顔が私たちのパワーの源となっております。本当にありがたいことです。子どもたちと一緒に私たちも楽しんで活動しております。

平成21年4月には、「イクタン号GO」の活動を認めていただき、文部科学省が「子どもの読書の日」を記念して開催する子どもの読書推進フォーラムにおいて、「子どもの読書活動優秀実践団体」として表彰されました。これもメンバー一人一人の活動はもちろんのこと、地域の方々のご理解とご協力のおかげと思っています。

私たちお話しボランティア「イクタン号GO」は、これからも子どもたちにお話を通して豊かな心と感動、そして想像力を育むお手伝いをさせていただき、子どもたち一人一人の成長を願いながら、地域の方々と共に歩み続けていきたいと思っています。



▲冬の特別おはなし会

心を育てるガールスカウト

社団法人ガールスカウト日本連盟福島県支部第23団

磐梯山麓の自然環境に恵まれた猪苗代町に、ガールスカウト日本連盟福島県支部第23団が誕生し31年になります。月2回猪苗代町体験交流館や、国立磐梯青少年交流の家周辺で体験活動や野外活動を中心に、6つの小学校と3つの中学校から集まった少女たちと、楽しい活動を進めています。「少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のために、責任ある市民として自ら考え、行動できる人となれるようにする」という日本連盟の使命のもと、多くの少女たちを育ててきました。ガールスカウト運動は少女と若い女性のための世界最大の社会教育活動で、世界中に1,000万人の仲間がいます。特に今年は記念すべき年で、日本のガールスカウト運動は90周年を迎えます。「心を育てるガールスカウト、よりよい明日をつくります」のテーマに沿い、昨年から日本連盟や福島県支部と連動したプログラムを展開しています。

昨年、全国の支部をめぐっている90周年のマスコットキャラクター「ころちゃん」と共に、野口英世博士の生家を訪ね、菩提寺の住職さんから幼少時のお話を聞き、地元の偉大な先輩を理解するよい機会になりました。また猪苗代町には、年間を通して大勢の観光客が訪れます。皆様に気持ちよく滞在していただけるように町内の主な道路や、天神浜周辺の清



▲ひなまつり集会

掃奉仕活動を通して、人に役立つ喜びを体験しています。そして何といても雄大な自然にふれながらの野外活動はスカウトたちが最も目を輝かせるプログラムです。夏のキャンプに向け、野外技術を学び、自分でやってみて納得し、自然の偉大さを感じたり、草花にも生命があることを学んだりして欲しいと思います。まさに「心を育てるガールスカウト」です。学校・家庭・地域が協力し、考える力や行動する力、問題を解決する力を身につけていってほしいと考えています。また会津地区には4つの団があり、一緒に活動することにより楽しさを知り、仲間づくりと指導者の資質向上をめざしています。



▲90周年マスコット「ころちゃんと一緒に」





今を大切に生きる

福島県公民館連絡協議会会長
秋山 敬一

公民館に通っている人は、みんな瞳が輝いています。心身ともに健康な人たちです。

「お世話になりました。」それぞれクラブ活動や講座を終えて元気に笑顔で帰っていきます。中高年の利用が多い公民館。みんなそれぞれの生活があり、人生があるんだと思います。しかし、それぞれに、苦しみ、悲しみがあり、楽しいことばかりではないはずです。でも、公民館にいるときはみんな声が弾んでいます。幸せそうです。

言うまでもなく、公民館には「個人」では得られない喜びがあります。「団体」として人との繋がりの中で得られる喜びがあります。いわゆる「社会性」の大切さです。

「一年先のことより、今日のことが大事。昔のことは考えないよ。」70歳近くになった利用者の言葉を思い出します。毎週一度公民館でフルートを吹いています。「何年になりますか。」と尋ねたら、「今年から」と返事が返ってきました。

公民館での活動の時間が日々の暮らしの「癒し」・「活力」となってくれればと願っています。



小学生だった私が 夢みた未来は今…

福島県家庭教育インストラクター連絡協議会会長
増子 恵二

今から約半世紀前になりますが、小学校の授業で、先生から「みんなが想像する21世紀の生活ってどんなふうに変わってると思う？」と話しかけられて、絵を描いたことを思い出します。

それには、全て道路は一方通行で、リニアカーが走り、自動制御でだれも運転ができ、もちろん交通事故も発生しない社会環境だったことを思い出します。街にはドームがかかり、常に空気が清浄され一定の環境を保持し、そして何よりも、誰の絵にも必ず家族が一緒に描き出されていたものです。

しかし、今世紀を迎えて現実を見たときに、「えっ？ちょっと違うんじゃない？」と感じるのは、団塊の世代の我々だけではないはずです。毎日のニュースで社会面を賑わすのは断絶された親子関係からの問題で、私たちの時代には当たり前だった行動が美談として語られる昨今…「これってなんかおかしくない？」「壮年層に突入した私たちができることってなにかあるよね！」みんなで考えてみませんか。



昔話の伝承と記録をめざして

前只見町昔ばなしの会副会長
堀金 保男

2mの雪道を杖にすがって保育所に着くと「おばあちゃん！」園児が玄関に待っている。「ざっと昔あったと」夕二はあちゃんの声に子どもたちは目を輝かせ息をつめて聞き入る。

「全日本語りの祭り」(平成7年)に参加した14名で発足したこの会は、町の3保育所へ年30回程、小中学校へ数回、公民館活動にも出演しました。対外的には、日本民話の会・下郷民話の会・梁川町・金山町・南会津町等からの交流会、全日本語りの会、未来博民話茶屋等への参加もあり、平成11年頃には県内外新聞やTV局からの取材も多く、県の「高齢者社会参加モデル事業」に採択され、昔話集「ざっと昔」の出版とVTRの発行、カセットへの録音も行われました。

平成18年には小学校の国語力向上計画に協力し、昨年は文化祭に満員の民話茶屋で小学生から高齢者まで出演し、小中学校の先生方からは、「聴く態度や考え方が深まり、発表力が向上している。」と感謝されています。現在40名の会員で「また来てね。」と子どもたちの声に激励されて今年も活動中です。



人との出会いに感謝して

白河市教育委員会派遣社会教育主事
柳 沼 典 正

平成21年度末で、派遣社会教育主事としての3年間の終わります。

思えば3年前、学校現場を離れ、社会教育・生涯学習という初めての分野の職務に、不安と戸惑いがありましたが、周りの方々のあたたかな笑顔と励ましに支えられ、ここまで来ることができました。そして、3年間を通して、多くの皆様と出会い、学校では味わえない様々な経験をさせていただく中で、「民官協働」「共に生き、共に高め合うネットワークの大切さ」など、数々の学びを私自身が体得することができました。特に、社会教育・生涯学習の大きな流れの中で、「教育」をとらえる目をもつことができたことが、大きな財産となっています。

今後は、派遣社会教育主事としての経験を生かし、学校・家庭・地域が一体となった教育の実現に向け、学校教育はもちろんのこと、さらに広い視野で、地域の社会教育の推進に寄与できるよう努力して参りたいと思います。

平手21年度社会教育事業関係各種受賞者 平手22年度福手県社会教育施設行事予定

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	青木千代美（郡山市男女共同参画審議会委員） 遠藤よね子（元福手市飯坂婦人会会長）	11月20日	文部科学大臣
優良公民館	福手市北信学習センター 会津美里町本郷公民館	11月5日	
優良PTA	いわき市立高坂幼稚園PTA 須賀川市立阿武隈小学校父母と教師の会 榎葉町立榎葉北小学校父母と教師の会	8月7日 11月18日	文部科学大臣
視聴覚教育・情報教育功労者	三瓶 良三（元郡山市視聴覚教育研究会理事 元郡山市教育工学研究会事務局長）	9月11日	
子どもの読書活動 優秀実践 図書館・団体（者）	1 図書館 新地町図書館 2 団体（者） お話しボランティア「イクタン号GO」（本宮市）	4月23日	文部科学省生涯学習政策局長
放課後子ども教室推進	川俣町小島たのしい教室	11月24日	
福手県青少年健全育成 条例に基づく表彰	1 青少年育成者 三本木正善（郡山市子ども会育成連絡協議会） 遠藤 重夫（郡山スケートスポーツ少年団） 山崎 久夫（郡山市青少年健全育成推進協議会大成地区協議会） 武藤 榮毅（会津若松市少年センター） 志賀 文男（いわき市立高久公民館） 2 青少年育成団体 御代田スポーツ少年団 いわき北地区更生保護女性会	11月20日	福手県知事
社会教育功労者	金澤 良一（前塙町社会教育委員の会議委員長） 堀金 保男（前只見町昔ばなしの会副会長） 林 久美子（元富岡町社会教育指導員）	11月4日	福手県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1 団体 相馬市立飯豊小学校幼稚園PTA いわき市立久之浜中学校PTA 2 施設 郡山市立橋地域公民館 須賀川市西袋公民館 喜多方市熊倉公民館		
全国社会教育委員連合	降矢由美子（田村地区社会教育委員連絡協議会副会長） 小島 秀雄（いわき地区社会教育委員連絡協議会委員）	10月29日	（社）全国社会教育委員 連合会長
日本PTA全国協議会	1 団体 伊達市国見町大枝小学校組合立大枝小学校PTA 小野町立夏井第二小学校PTA 2 個人 金子 雄治（前福手県PTA連合会副会長） 日下 龍一郎（同前副会長） 櫻内 秀司（同前副会長） 森田 昌幸（同前副会長）	11月18日	（社）日本PTA 全国協議会長
東北地区社会教育委員 連絡協議会	後藤みづほ（安達地方社会教育委員連絡協議会副会長） 伊丹 節子（岩瀬地区社会教育委員連絡協議会会長） 阿部 君江（田村地区社会教育委員連絡協議会会長）	10月22日	東北地区社会教育委員 連絡協議会長
東北地区子ども会育成 連絡協議会	1 団体 喜多方市豊川町子ども会育成会 福手市永井川少年会育成会 2 個人 羽金 洋子（会津若松市） 遠藤 仁（本宮市） 降矢美知正（いわき市）	11月14日	東北地区子ども会育成 連絡協議会長

福手県立図書館	福手県立美術館	福手県立博物館	福手県自然の家
“晴れ着”を着せた日本の近代文学 ～ブックカバーとのコラボレーション～ 4月2日（金）～6月30日（水） 「青い目の人形」に見る資料展 7月2日（金）～10月6日（水） 福手の名著展 10月8日（金） ～平成23年1月5日（水） 昔話絵本～赤羽末吉を中心に 平成23年1月7日（金） ～4月6日（水）	「美のふるさと秋田県立近代美術館名品展」 4月17日（土）～5月16日（日） 「アンドレ・ポーシャン展」 5月29日（土）～7月4日（日） 「胸さわぎの夏休み展」 7月17日（土）～8月29日（日） 「古代エジプト神秘のミイラ展」 9月18日（土）～12月5日（日） 「スタジオジブリレイアウト展」 平成23年2月26日（土） ～5月22日（日）	春の企画展「千少庵と蒲生氏郷」 4月17日（土）～5月30日（日） 夏企画展「森に生き山に遊ぶ！ ～福手の森林文化～」 6月26日（土）～8月22日（日） 秋の企画展「漆のチカラ ～漆文化の歴史と漆表現の現在～」 10月9日（土）～11月28日（日） 冬の特集展「まほろん移動展」 「里帰り展 ふくしまの土偶」 11月30日（火）～平成23年1月10日（月） 春の特集展「永山巨コレクション展」 平成23年3月5日（土）～5月15日（日）	郡山自然の家 オープンデー 9月26日（日） 相馬海浜自然の家 海浜チャレンジ2010 7月19日（月） 会津自然の家 あったかふれあいまつり 10月16日（土） いわき海浜自然の家オープンデー 10月24日（日）

編集後記

今年度も残すところあとわずかとなりました。
近年「子どもたちの豊かな心」を育むために、子どもの読書活動の重要性が叫ばれています。平成22年は「国民読書年」でもあります。
そこで、「社会教育」第330号は、「子どもの読書活動の推進～家庭・地域・

学校等の連携～」をテーマとした内容としました。
今回、福手県子ども読書活動推進会議委員長でもある国立大学法人福手大学人間発達文化学類特任教授の高野保夫氏からは、「子どもの豊かな読書活動を育む環境づくり」という題で「提言」をいただきました。また、特集におきましても、子どもの読書活動の推進について、本県の今後の方向性と、具体的な事例として鏡石町立第一小学校の取組みを紹介しました。家庭、地域、学校等の連携協力のもと、福手県の将来を担う子どもたちの豊かな心を育むため、子どもの読書活動の推進していくことは、大変重要なことだと思います。
終わりに、日々御活躍されている方々から、お忙しい中御執筆をいただきましたことに対しまして、心から感謝を申し上げます。また、読者の皆様がそれぞれの地域や立場で、より一層御活躍されますことをお祈りいたします。

平成22年3月26日発行
社会教育 No.330

編集 社会教育課
発行 福手市杉妻町 2-16
福手県教育委員会
印刷 福手市西中央 4-25
（有）吾妻印刷